

下北地区統合校教育内容等情報交換会（第3回）概要

日時：令和7年2月14日（金）

13：30～15：00

場所：下北文化会館 大集会室

<出席者>

山本 隆悦 進行役、伊藤 文一 委員、野呂 政幸 委員、又村 彰 委員、
佐々木 一浩 委員、濱田 大臣 委員、木村 努 委員、吉田 成人 委員、
阿部 謙一 委員、高屋 龍一 委員、濱中 亮輔 委員、畑山 元康 委員

1 開会

2 意見交換

（1）第2回情報交換会における主な意見の確認

事務局から、資料2により説明した。

進行役から事務局へ資料2の「4 検討内容に関する質問事項等」に対する回答を求めた。

→（事務局）1つ目の○に対して、これまで学校等と連携しながら、むつ工業高校の生徒の部活動等の活動場所を検討してきたところであるが、硬式野球部については、大湊高校の野球場とむつ運動公園野球場を併用することで現在調整を進めている。

また、陸上部については、むつ運動公園陸上競技場を、体育の授業については、学校内の既存施設をそれぞれ活用することで現在調整を進めている。

2つ目の○に対して、統合校については、第2期実施計画において、総合学科3学級、工業科2学級の全日制課程の高等学校と決定している。定時制課程や寮の設置については、今月に県教育委員会教育長へ報告される青森県立高等学校魅力づくり検討会議の検討結果等も踏まえながら対応を検討していく。

むつ工業高校長から、次のような補足説明があった。

○ 週に1～2日、大湊高校の野球部が大湊高校のグラウンドを使用しない日があるため、その日に本校の野球部が借用し、打撃練習を行う予定である。詳細については、両校の野球部の顧問同士で調整しているところ。

また、むつ運動公園野球場では、守備練習のみ使用することを条件とし、現在むつ市と調整しているところ。

体育の授業や陸上部の活動場所については、本校の既存施設と、むつ運動公園陸上競技場を使用することで調整しているところ。

今後は関係する部活動の顧問や教科担当教諭等も含めて、学校で具体のスケジュール等を決定していく。

大湊高校長から、次のような補足説明があった。

- 本校のグラウンドについては、本校の野球部が使用しない日にむつ工業高校が使用することとしているため、本校の活動には影響がないと考える。具体的な内容については、今後話し合いをしていく。

委員から、次のような意見があった。

- むつ市内の民間保有の建物も活用することで、寮の設置ができるのではないかと考える。

(2) これまでに出された意見のまとめの確認

事務局から、資料4の「1 開催趣旨」と「2 これまでに出された意見(1) 目指す人財像・学校像」について説明した。

委員から、次のような意見があった。

- 「学科、地域性を超えた学びを実現する学校」を目指す学校像に追加してほしい。
ICTを活用することによる、他地域の学校の科目履修による単位取得や、実習等による資格取得が可能となれば、下北地域の生徒の様々な可能性が保障されること考える。

事務局から、資料4の「2 これまでに出された意見(2) 特色ある教育活動」について説明し、進行役から委員に意見を求めたが、委員から意見はなかった。

事務局から、資料4の「2 これまでに出された意見(3) 総合学科と工業科の連携」について説明した。

委員から、次のような意見があった。

- むつ工業高校の生徒実践発表会を見学した際に、機械科、電気科、設備・エネルギー科の生徒が各学科の枠を超え、同テーマの課題研究に取り組んできたという発表があった。統合校においても、総合学科と工業科の連携により、生徒はより充実した教育を受けることができると考えられるため、連携は重点的にやっていただきたい。

事務局から、資料4により説明した。

進行役から、資料4に掲載している意見は、来年度設置する開設準備委員会での検討事項以外のものとなるため、県教育委員会において対応を検討してほしいとの発言があった。

(3) その他

委員から次のような意見があった。

- 資料4に記載されている意見については、県教育委員会で対応を検討するとのことであったが、検討した結果はどのような形で発信されるのか。
→ (事務局) 検討した結果については、各団体の会議等機会を捉えて、適切な時期に情報提供をしていきたいと考えている。

- 資料4の単位認定についての欄に、可能であれば「他校種との連携を含む柔軟な単位認定」ということを付け加えてほしい。
統合校での学びを定時制課程の学校で単位認定できたり、統合校の生徒が夏休みに大学等で学んだものを卒業単位に含めることができれば、生徒の可能性が広がると考える。

- 統合校の工業科に定時制課程を設置した方が良いといった意見が挙げられているが、総合学科・工業科問わず、統合校に定時制課程を設置してほしいとの意見ではなかったか。
→ (事務局) 第1回の会議において挙げられた意見は、「現在、下北地区に設置されている定時制課程は、田名部高校だけであるが、定時制課程に進学する中学生が増えてきている。また、工業を学びたいが、全日制課程への進学は難しく、田名部高校の定時制課程に進学している中学生もいることから、統合校に工業科の定時制課程を設置することで、中学生のニーズに対応できるのではないか。」といった御意見であった。

- 定時制課程や寮の設置については、実現に向けて具体的に進んでほしいと考えている。
また、生徒が統合校で何を学ぶことができ、どういう進路選択ができるのかという情報を進路指導のためにも、早く提供してほしい。
- 中学校では、6月から7月にかけて生徒、保護者、学校とで進路相談を行うことから、その前には情報発信する必要がある。

- 統合校においても、通信制課程のスクーリングの協力校となればよいのではないか。

- 以前、遠隔授業に係る資料の準備や授業の見守り等の運営を行っていたが、つまづいている生徒への対応等が難しく、遠隔授業は万能でないと感じた。遠隔授業を実施するためには、生徒の実情をきちんと把握する必要がある。

- むつ市では不登校の生徒に関してメタバース教育を試験的に実施しているが、統合校においても、多様性という部分では、このような取組を取り入れることも考えられるのではないか。

事務局に対し、意見交換の意見及び意見等記入票での意見も踏まえて、「下北地区統合校教育内容等情報交換会の意見のまとめ」を整理するように進行役から指示があった。

また、整理した資料については、進行役が確認した後に委員の皆様へ送付し、修正意見等があれば事務局へ提出することを確認した。

3 閉会